松山駅高架橋　設計ミスによる工事延期について

　ＪＲ四国は１９日、ＪＲ松山駅周辺の鉄道高架化事業で、高架橋の橋脚の位置を誤るなどのミスで改修工事が必要になり、高架への切り替えを当初予定の２０２３年度中から２４年秋頃に延期すると発表した。高架化は県の事業で、数億円規模という改修費用の負担割合などは、県などと今後協議するという。

　同社によると、ミスがあったのは松山駅南側で建設中の「三番町架道橋」の橋脚２基。設計を担当する会社が橋脚の位置を図面に誤って示し、施工会社も気付かずそのまま工事を行ったという。完成後、橋桁を載せるため昨年８月に再度、測量したところ、橋脚１基が西に５０センチ、南側の別の１基が東に８０センチずれていた。しかし、橋脚上部の設計変更で対応でき、安全性も問題ないという。

このほか、同橋南で建設中の「千舟町架道橋」でも、橋桁の設計ミスが判明。間違った寸法で製作し、修正を行ったという。

　この日、ＪＲ四国は県庁で記者会見し、建設用地の形状変更などを橋脚の設計に反映していなかったなどと説明した。宇野匡和工事課担当課長が「設計会社のミスだが、発注者として確認、指導が足りなかった」と釈明した。

　同駅付近の鉄道高架化事業は０９年から始まり、２４年度中に完了予定だった。総事業費は約５８０億円を見込む。県によると、側道の整備などは高架工事終了後に行うため、高架への切り替えの遅れは松山市が周辺で進める再開発計画にも影響するという。

出典：2023年1月20日　讀賣新聞

https://www.yomiuri.co.jp/local/ehime/news/20230120-OYTNT50062/